

## 投資事業評価調書（新規）

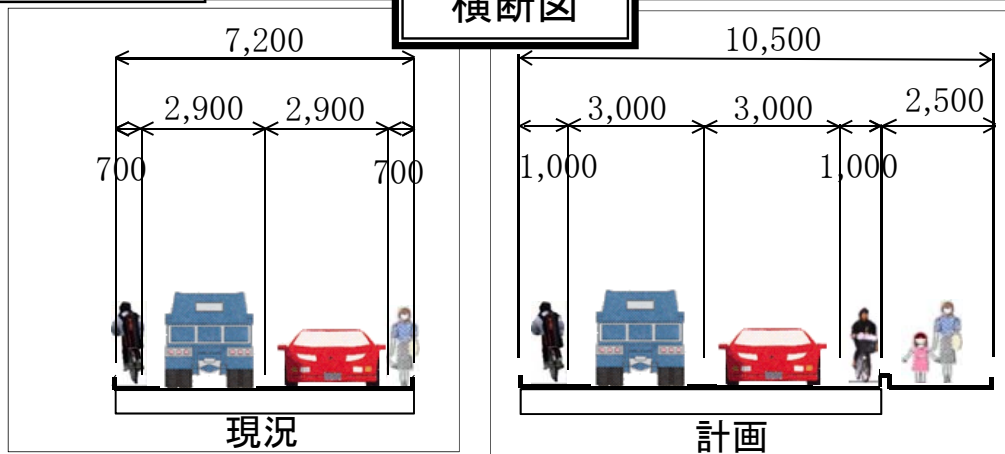
部課室名	県土整備部土木局 道路保全課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路保全課長 小谷 和弘 (交通施設担当主幹 多田 孔充)	内線	4389 (4399)	
事業 種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地 補償費	着手予定 年度	完了予定 年度
交通安全 施設事業	一般県道広田洲本線 歩道設置事業	洲本市大野	4.1 億円	3.0 億円	平成 30 年度	平成 34 年度
事業目的			事業内容			
<p>○安全な歩行者・自転車通行空間の確保</p> <p>当該区間は、大野小学校への通学に加え、青雲中学校、洲本高校への通学に利用されているが、自動車交通が多いにもかかわらず、歩道が未整備で、危険な状況となっている。</p> <p>このため、歩道と幅広路肩を整備し、通学児童をはじめとする歩行者・自転車の安全な通行空間を確保する。</p>			<p>歩道設置（片側）</p> <p>延長：300m</p> <p>幅員：2.5m</p> <p>【現況交通量】（H29 実測）</p> <p>自動車： 4,969 台／12h</p> <p>自転車： 153 台／12h</p> <p>歩行者： 103 人／12h</p> <p>【負担割合】</p> <p>国：55% 県：45%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>① 当該区間は、大野小学校の通学路（通学児童113人）であるが、自動車交通が多いにもかかわらず、歩道が未整備であるため、児童は、狭い路肩（70cm）を通行せざるを得ず、危険な状況である。</p> <p>② 大野小学校の通学以外でも、周辺の青雲中学、洲本高校への通学にも利用されており、歩行者、自転車の通行が多い。</p> <p>③ 過去5年の事故件数は11件、うち歩行者・自転車の関係する事故は1件。</p>					
(2) 有効性 ・ 効率性 (執行環境 状況)	<p>① 歩道の整備及び幅広路肩の確保により、連続した安全な歩行者・自転車の通行空間が確保される。</p> <p>② 洲本市、地元から早期整備の要望がなされる等、事業執行環境が整っている。</p>					
(3) 環境適合性	<p>① 歩道舗装には、雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。</p>					
(4) 優先性	<p>① 学校関係者、地元住民、道路管理者、警察等で実施した通学路合同点検において、当該区間での通学児童の危険性が指摘されており、洲本市の「通学路交通安全プログラム」に本事業が位置づけられている。</p>					

# 交通安全施設事業 一般県道 広田洲本線（歩道設置）

## 位置図



## 横断図



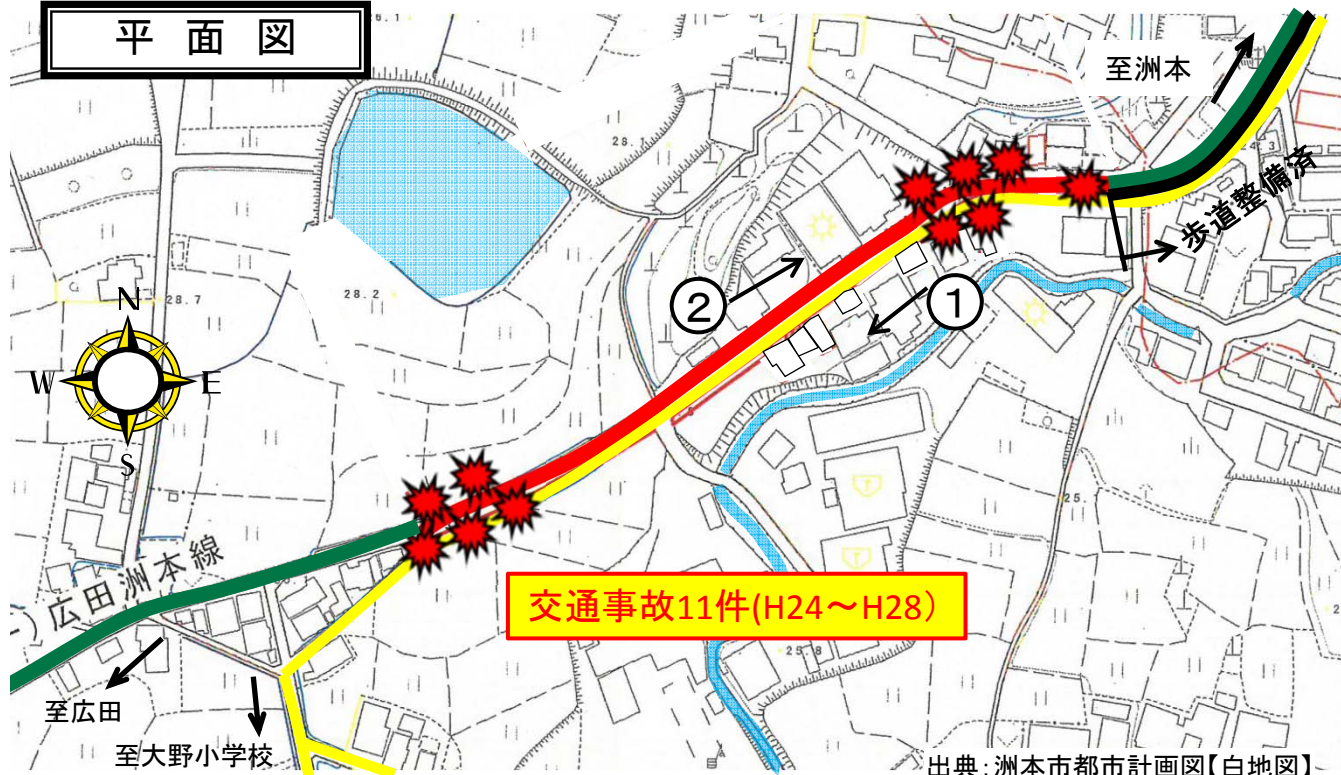
## 事業概要

事業概要 : 歩道設置  
 所在地 : 洲本市大野  
 延長 : 300m  
 幅員 : 6.0m(10.5m)  
 総事業費 : 4.1億円  
 事業期間 : H30~H34

# 事業の必要性

- ①歩道整備により、通学児童を含む歩行者の安全な通行を確保
- ②幅広路肩の採用により、自転車(中学生・高校生の通学)・歩行者の安全な通行を確保

# 平面図



# 現況写真

①歩道が無く通学児童が危険



②幅員が狭く通学自転車が危険



- 凡例
- : 県道
  - : 事業区間
  - : 既設歩道
  - : 通学路
  - : 公共施設、学校等
  - ★ : 交通事故発生地点

自動車	: 4,969台/12h
自転車	: 153台/12h
歩行者	: 103人/12h (H29.5実測)